Hamamatsu Museum of Musical Instruments
浜松市楽器博物館だより
No. 88
2014. 4. 20
本紙はホームページでも見ることができます。

竪琴伝説 ～ルネサンス・ハープの世界～

4 月 11 日（金）、チェンバロとハープという 2 種類の楽器を自在に操る演奏家、西山まりえさんをお迎えして、バロック・ハープとルネサンス・ハープのコンサートを開催しました。

ハープは木の枠に弦が張られていて、指で弦をはじいて音を出す楽器です。紀元前より存在していた楽器で、儀式に使われたり、人の心を静めたり、人々の生活に欠かせない楽器として愛されてきました。

現代のハープはとても大きく、足元にはペダルがあり、弦は一列に張られています。弦をはじくとピアノでいう白鍵の部分の音が鳴りますが、足元についてるペダルを使うと半音（ピアノでいう黒鍵の音）が出るようになります。しかし、今回演奏していただいたハープにはペダルがありません。ではどのようにして半音を鳴らすのでしょうか。

バロック・ハープは 17 世紀に使われていた楽器で弦は 3 列に張られています。外側の列にはピアノでいう白鍵、真ん中の列には黒鍵の音が並んでいます。真ん中の列の弦を弾くには両脇の弦の間から指を通して演奏しなければなりません。また、ルネサンス・ハープは弦が 2 列になっていて、ピアノでいう白鍵と黒鍵にわかれています。高い音の弦と弦との間は 8 ミリしかないそうです。

「当時のヨーロッパの人がこんなに弦の間隔が狭いものを弾いていたと思うととても驚きますが、当時のヨーロッパの人は、丁度現代の日本人と同じくらいの背丈だったそうです。そのため、指も細かったのでしょう。」と西山さんのお話がありました。

バッハ作曲「前奏曲 ハ長調」、ジェズアルド作曲「君主のフランス風カンツォン」などをバロック・ハープで、クローダン原曲 / アテニャン編曲の「花咲く年頃にある限り」、レオナルド・ダ・ヴィンチ作曲「愛は喜びを与えてくれるが…」などをルネサンス・ハープで演奏していただき、両者の音色の違いを聞き比べることができました。

演奏だけでなく、ハープの歴史や作曲家のお話などもしてくださり、とても充実したコンサートとなりました。

日　時：平成 26 年 4 月 11 日（金）　19:00 ～ 20:30
会　場：楽器博物館天空ホール
出　演：西山まりえ
入場者：61 人

楽器博物館の 20 年とこれから

館長 嶋和彦

開館当時の１階第１展示室

新年度になりました。今年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、去る４月８日に楽器博物館は 19 歳の誕生日を迎えました。つまり、今年度は開館 20 年目の年です。20年目を20周年とすることもあるのですが、楽器博物館は満 20 歳の年、つまり来年度を 20 周年とすることになっていますので、今年はその準備のために色々と忙しい年になります。

10 年ひとむかし、とよく言いますが、まさにこの言葉は的を得たものです。私が楽器博物館開館準備作業に加わらせていただいたのは 1994 年の 4 月からですが、95 年４月の開館までのあの膨大な作業量を、先輩とともによくこなしたものだと懐かしく思います。ちょうどアクトシティ浜松が 94 年の 10 月オープンでしたから、アクトシティに関わった職員の皆さんとともども、忙しくも充実した時を過ごさせていただきました。

なにしろ日本で初めての、公立の、世界の楽器を平等に取り扱う、一般の人々のための博物館です。アジアはもちろん、欧米にもない規模とコンセプトの博物館としていかにあるべきかを考えながらの準備でした。４月８日、開館式典後の関係者内覧会の１分前、いや正確には０秒前まで、展示作業（これは開館記念特別展「竹の楽器･ひょうたんの楽器」のことですが）をしていたことを思い出します。おそらくその時の顔は引きつっていたのでしょうけれど、見学者が入口に現われたとたんに笑顔で「おはようございます！」。

開館時は実は常設展の展示品はヨーロッパの楽器と日本の楽器だけでした。その他の地域の楽器はまだ十分な数を所蔵していなかったのです。ですから、この特別展「竹の楽器･ひょうたんの楽器」は大阪の国立民族学博物館や犬山の野外民族博物館リトルワールドから 350 点近くをお借りして開催したのでした。

何とか無事に開館してからの 10 年間は、通常の博物館活動の他に、アジア、アフリカ、オセアニア、アメリカの楽器の収集と、写真や映像資料の収集をしなければなりませんでした。さらには、とにかく多額の経費をかけて開館した日本初の公立楽器博物館ですから、市民はもちろんのこと、日本中の人々、音楽愛好者、音楽家、芸術家、学者、博物館関係者、そして子供からおじいちゃん、おばあちゃんにまで、「すてきだなぁ」と言ってもらえる博物館づくりをすることが最大最重要の課題でした。博物館のスタッフが全員でこの課題に真摯に向き合ってきたと思います。その結果、開館後約 10 年、2005 年からのリニューアル実施が実現したのです。

開館当時の地下展示室

オープン記念特別展「竹の楽器･ひょうたんの楽器～音と形への工夫～」

リニューアルオープン式典の第１展示室

リニューアルの課題ははっきりとしていました。世界の楽器を偏ることなく平等に展示紹介すること。基本計画に沿って展示していきました。１階は日本を含めたアジア、地下がそのほかの地域。ヨーロッパの鍵盤楽器は別枠で展示。なぜならば地元浜松を代表とする楽器産業であるピアノの特色を打ち出すためです。そして、日本の洋楽器産業のコーナーをきちんと確保すること。

10 年間で収集した世界の楽器を展示するには、当初からの展示スペースでは面積が不足でした。しかし、時の運でしょうか、運命の女神がほほ笑んでくれたのでしょうか、建物１階にあった「産業情報室」が移転することになり、そのスペースを楽器博物館展示室として利用できることになったのです。これは本当にラッキーなことでした。そこには特別展コーナーと国産洋楽器コーナー、そでに人気の高い体験コーナーを拡大して体験ルームとして設置することにしたのです。

ほぼ１年かけてエリア毎に実施してきたリニューアル工事が終わり、2006 年３月 21 日にオープン。式典では、それまで楽器博物館ワークショップで技術を磨いてきた市民によるガムラン・アンサンブルがお祝いの演奏を披露してくれました。もちろん完全完璧ではありませんが、これでひとまずは、世界中の楽器を常設展で展示でき、浜松市楽器博物館のコンセプトが目に見える形になったのです。感慨ひとしおでした。

リニューアルオープン当日の地下展示室

その後は、博物館の活動は、ますます磨きがかかります。何よりも重要なのは、楽器という物体以外の資料を集めることでした。それはいろいろあるのですが、まず最初は何といっても楽器の演奏風景の映像・音・写真です。これには、日本中、いや世界中の演奏家の協力をいただくことが不可欠でしたし、次の 10 年先のリニューアルを見込んでのスピードと量が課題でした。スタッフにとってはたいへんな仕事量をこなさなければならないという一種過酷な年月でしたが、よく頑張ってくれました。その甲斐あって、今では多くのＡＶ資料がそろいました。そして、所蔵楽器を演奏したコレクションシリーズのひとつが、2012 年度の文化庁芸術祭レコード部門の大賞の栄誉に輝き、日本はもちろん世界の博物館関係者が注目してくれるまでに至りました。

さて、来年の 20 周年を控え、今年の課題は、それらのＡＶ資料と展示楽器とを有機的に結び付ける展示の整備です。とはいっても特別予算はありませんから、経常予算の中で実現していかなければなりません。そこは知恵の見せ所ですね。もちろんどこまで実現できるかはわからないのですけれど。

浜松市楽器博物館は、今やひとつの地方都市である浜松市という郷土の博物館の域を出て、日本を代表する楽器博物館、世界の５指に入る楽器博物館になりました。その責任の大きさを背負いつつ、一般の人々が楽しめる博物館をめざして、これからもスタッフ関係者は尽力していきたいと思います。皆様の温かいご支援をお願いしたいと思います。

ミュージアムサロン「デュオ・ピアノ」

両側に鍵盤のあるデュオ・ピアノ（プレイエル社、パリ 1925 年製）のミュージアムサロンを行いました。デュオ・ピアノはふたつのピアノがひとつになった変わった楽器です。どんな音がするのかとても気になりますね。なぜこのような形の楽器が誕生したかや、楽器の特徴などを解説しました。演奏は加藤はる奈さんと当館職員の岡部美喜。ガーシュウィン作曲の「アイガットリズム」や「ルパン三世のテーマ曲」「ふるさと」などを演奏し、大きな拍手に包まれました。

日　時：平成 26 年 3 月 16 日（日）　14:00、15:30
会　場：楽器博物館展示室
出　演：加藤はる奈、岡部美喜（当館職員）
入場者：95 人

楽器ワンポイント講座 その 1
「鍵盤楽器のキーボード」

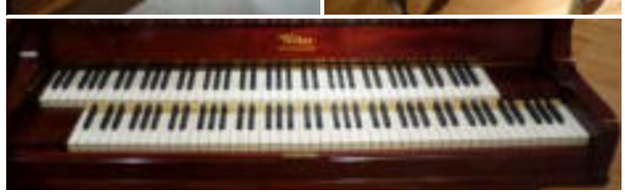
ピアノなどで、指で操作するひとつひとつの部品を「キー（鍵）」といい、キーを一定のルールに従って平面に並べたものを「鍵盤＝キーボード」といいます。キーボードは楽器だけでなく、パソコンや電卓にも使われています。

さて、キーボードの最大の特徴とはなんでしょうか？

ルールに従って作られているので、誰が作ってもほぼ同じ形で、わかりやすく、多くの人が使いやすいということです。

楽器にキーボードが取り入れられたのはなんと紀元前のオルガンがはじまり。現在良く知られている白黒のキーボードではありませんが、一定のルールに従って並べられた棒のキーボードでした。

現在最も普及しているピアノの鍵盤は、幅や長さなどが違いますが、チェンバロやオルガン、鍵盤ハーモニカなどにも使われています。ピアノのキーボードの操作法を 1 度覚えれば、同じ方法で他の楽器も演奏できるのです。ピアノのキーボードは時代によって幅や長さなどが違うこともありますが、現代のピアノは幅や長さは決められているので、世界中どこのメーカーが作っても同じサイズのキーボードになりますから、ピアニストは世界中のピアノが楽に演奏できるのです。あたりまえですが、こう考えてみるとキーボードは、とてもすごい発明なんですね。



博物館日誌

3/16（日）ミュージアムサロン「デュオ・ピアノ」
　14:00、15:30　展示室
　出演：加藤はる奈、岡部美喜（当館職員）
　入場者：95 人

4/11（金）レクチャーコンサート
　「竪琴伝説～ルネサンスハープの世界～」
　19:00　天空ホール　出演：西山まりえ
　入場者：61 人

これからの催し物

●展示室ガイドツアー　毎日曜日　展示品の解説
　※催し物により変更もあります。

●ギャラリートーク　毎日数回
　展示品の解説を行います

●企画展
　「切手に見る楽器たち～江波戸昭コレクション展～」
　　5/3（土）～ 6/1（日）

●レクチャーコンサート
　「伝統から現代へ～フラメンコギター～」
　　5/14（水）　19:00　天空ホール
　　出演：鈴木尚、金田豊、容昌

　「京・響・雅～柳川三味線～」
　　5/24（土）　14:00　音楽工房ホール
　　出演：林美音子、林美恵子

　「テーグム散調～韓国古典音楽の粋～」
　　6/6（金）　19:00　天空ホール
　　出演：キムヒュンミン、リチャンソプ、パクソニョン

　「ブルーグラス・プライド～アメリカ音楽のルーツ～」
　　6/18（水）　19:00　天空ホール
　　出演：イースト・テネシー州立大学ブルーグラスバンド

　「21 世紀の新地平～ピッコロヴァイオリン～」
　　6/25（水）　19:00　天空ホール
　　出演：古舘由佳子、ユーリー・コジェバートフ

●ミュージアムサロン　天空ホール　13:30、15:00
　5/3（土）「中阮」　出演：タン・ソク・ティエン
　5/4（日）「アルパ」　出演：長島忠之、桜井壮憲
　5/5（月）「ムビラとコラ」　出演：三木まさよ

浜松市楽器博物館だより
平成 26 年 4 月 20 日発行　No. 88　　編集　浜松市楽器博物館
〒430-7790　浜松市中区中央 3－9－1
TEL 053-451-1128　FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp　URL http://www.gakkihaku.jp/